

偽史話人伝



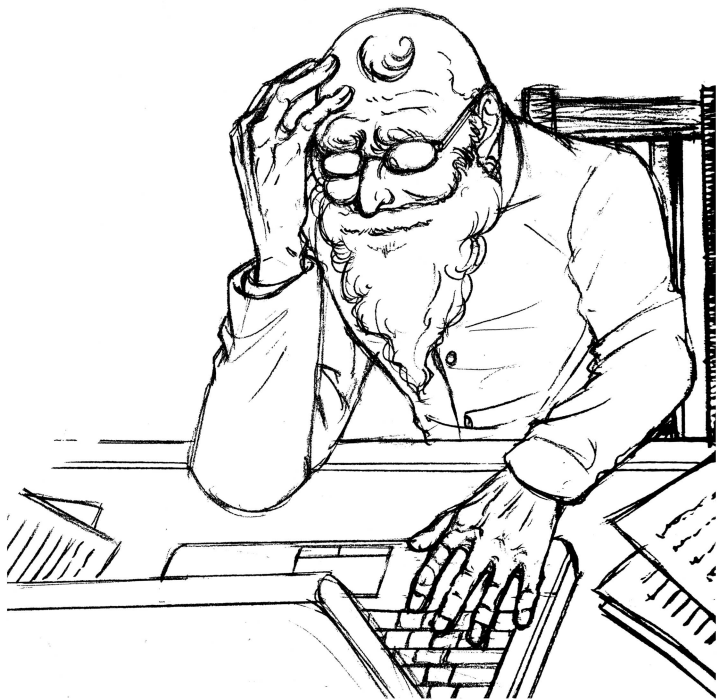
偽史話人物

この物語はフィクションです。
登場する人物・団体・組織などの名称、
また事件などはすべて架空のものです。
実在の人物・団体・組織・事件とは
一切の関係がありません。

また、如何なる思想、
良心および信仰等を
肯定もしくは否定する趣旨ものでも
ありません。

加えて、本作品の内容は、
暴力等の犯罪行為その他、
あらゆる反社会的・反人道的行為を
肯定および助長するものでも
ありません。

クロヒス諸房 トオノキョウジ



ハッターラ・キタクネー

(Huttaler Kitukney 1913-2001)

パキスタンの経済学者

ビル・ゲイツさんお金くれませんか、と私は常々思っていて、いつ振り込み先の口座番号を訊ねられても良いよう、さくら銀行の通帳をデスクの上に出しっぱなしにしてある。あ、いや。ついこの間、三井住友銀行とやらに変わったんだっけか。銀行員も大変だね。働きたくねえなあ。

故郷パキスタンと日本を行き来するようになって四十年。早稲田の学生街の外れにちよつとしたマンションを買い、経済学の非常勤講師として大学や専門学校を転々としているうちに、あつという間に齡九十も目前だ。

おおよそ週に二回ほど、どこかの教壇でぐだぐだと喋っていたら、ひとり者の老人が暮らすに足る収入は確保できた。そろそろ週一でもいいかと考えているくらいだ。

可能な限り働きたくねえなあという思いはいつも変わらないが、私を慕ってくれる学生はそれなりに可愛かった。私がほんの伝えた僅かばかりのティップスで、彼らが人よりちよつとだけ豊かな未来を手にいれる。それを思えば、いかに身体を動かさずに収入を得るかを求めて選んだこの学者という職にも、十分に張り合いが出た。この先働かずにこの地位がずっと守れるなら尚良い。働きたくねえなあ。

経済は水モノというが、この世の中、水モノでない分野を探す方が難しい。それは人が関わるからだ。人が人を動かし、その時には常にお金やそれにつながるものが動く。

所々に波紋が発生し、波紋同士がぶつかり合うから、運が無くて大損をする人もいるように見えるし、たまたまその波同士がどうなるかを見やすい位置に立っていて、上手くそれに乗って、大儲けをする人もいる。そして、本人が意識するしないに関わらず、波の中心になってしまった人間が、その時代の経済のキーマンなのだ。

……ほら、こう喋るとソレっぽいだろう？　こんな空っぽのヨタ話にも、学生や聴講者はうんうん頷き、しっかりとお金を落としていく。私も小さくはあるが波紋の中心だ。望むらくは、この先何も努力しなくとも私にお金が入る、そんな波紋を作れる仕組みが欲しいものだ。働きたくなえなあ。

そうか、と私は思い立った。

波紋の出し方を予めでっち上げて、ばらまいておこう。ここではお金が動いたよ、こんな人がお金を動かしたよというサンプルケースをばら蒔くことで、きつといつか私の所にもちようど良く波が来る気がする。

具体的には、お金を動かしたっぽい、またはお金が周りで動いてるっぽい有名人の小話をでっち上げるのだ。可能性に満ちた学生達やお金狂いの阿呆どもを、偽の歴史や偉人の話で、やる気にさせてやろう。

ちようど良い事に、空っぽの自己啓発コラムばかりぎっしり詰めこんだビジネス誌の編集者が、知り合いにひとりいる。梓埋め記事にはいつも困っている様子だから、不定

期連載でいいよと言ってやれば喜んで飛びつくだろう。未来の分も描いておいてやろう。ひよっとしたら死んだ後も、故郷の家族にお金が行くかもしれない。

さっそく私はウィンドウズ98を立ち上げ、メモ帳に思いつくまま書き連ね始めた。働きたくねえなあという情熱だけは、いくら歳をとっても変わらない自信がある。



オーチカ・エールー
(Oachikat Air 1995-)
フランスの軍属画家

「イヤっすよ！ もう描きたくねえっす！」

ダッソーの戦闘機ラファール、エアバスにユーロコプター。第106ボルドーIIメリニャック空軍基地にずらり並んだ航空機を前に、オーチカはうんざりしていた。

「そう言わずに、な。描いてくれよ。ニポンの美少女！」

「見本ここに持つて来たからさ、ナガト！ ナガト！」

ある者は肩にがしりと腕をかけ、ある者は正面から頭を下げる。フランス空軍のとある部隊には今、空前の日本ブームが訪れていた。同僚や上官がこぞって、オーチカに日本のアニメーションやテレビゲームのキャラクターを描かせたがったのだ。

「いい加減にして下さいよ！ イタ戦闘機描く為に入隊したんじゃないっすよ、俺！」

「そう言わずにさ、重要な仕事だよこれも。な、頼むよ」

と言いながら、先ほどからナガトナガトと連呼する軍曹が、日本語のコミックスらしき本を指差してオーチカに見せ付ける。

「ホントに仕事なんですか、これ。完全に皆さんの趣味じゃないですか」

「いいや、立派な仕事だ。有事の際に俺たちの生存率向上に貢献する、お前の立派な役割だ」

「生存率、ですか？」

オーチカが聞き返すと、軍曹は「ああ」と自信たっぷりに頷いた。

「たとえばジャパン・エキスポでイタ戦闘機なんか展示してみろ。今は国民もニポン大好きだ。民間の好感度が上がる、入隊希望者も増える、兵器メーカーは進んで新型を売りに来る、俺らの生存率が上がる。ほら見ろ、いい事尽くめじゃねえか」

「言われてみれば、そうかも知れませんが……でも」

オーチカは躊躇いながら目を伏せ、戸惑う。

「その、最近特に、女の子の肌色の割合が多くて……恥ずかしいんすよ」

「なんだよ、ウブだなあおい！ 女の裸なんで慣れた、慣れ！ よし、俺が何とかしてやるよ」

軍曹はがははと笑って、オーチカの背中をバンバン叩く。

「俺には妹がいてな。細っこいけど目とおっぱいがバッチリしてる美人だよ」

オーチカは彼にばれないよう、小さく溜息を吐く。休暇の夜に酒に酔う度に、何度も写真を見せ付けられる。確かにスタイルも顔も良い女性だったとオーチカは覚えていた。

「はあ、何度かお聞きしたような気がします」

「仕方ねえから妹に頼んで、抱かせてやるよ！ ああ見えてやり手なんだぜ」

えつ、とオーチカは面食らった。抱かせてやるって、そんな、お義兄さん！

動きの固まったオーチカを尻目に、軍曹は一度自室に消える。そして、すぐさま何や

ら小脇に抱えて戻って来た。

「ネットオークションが得意でよ、この間もニポンのダキマクラっていう素晴らしいナガトを」

「もうやだ！ おうち帰る！」

この後退役した彼は、ダッソー社の新規商品戦略「イタエール」の要として活躍する。航空機を公式「イタエール」にする為、日本のキャラクター版権の買い付けから実際のペイントまでも手がけ、国内の痛航空機市場を席卷する第一人者となるのだが、その成功が彼の真に求めるものであったどうかは、誰が知る由も無い。



ティティモ・マッシュェロー

(Titiemos Masshello 1983-)

エチオピアの男子走り幅跳び代表選手

世界陸上選手権への出場権獲得が、彼の童貞卒業のチャンスだった。

幼なじみの彼女には、小さな頃から、「エチオピア代表になったら結婚しような！」と言って来たティティモだった。お互い十九歳になった今、彼女自身も、どうやらやぶさかではない様だった。

ただ、ティティモはモテなかった。競技に対してストイック過ぎた、モテない思春期を送って来た。そんなティティモは、純粹な願いであつたはずの「結婚しような！」を、いつしか「やらせてくれるよな！」に脳内で勝手に誤変換し、それがOKだと思い込んでしまっていたのだ。

今日はその選抜試合だ。ライバル達の保持記録を見れば、出場の可能性を得る為に、最低でも8メートル30の壁がある事を、ティティモは知っていた。

彼女の視線を感じながら、ティティモはスタートラインにつき、大きく酸素を胸に取り込んだ。

そうだ、俺は飛べる。40飛んでやる。飛んでやるんだ！ 乳もませろ！

フリースタートで、彼はとんとんと地を蹴り、走り、駆け、飛んだ。

「ティティモ……マッシュエロオウ！」

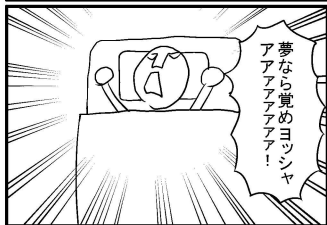
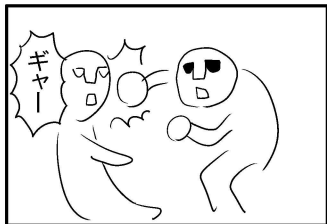
彼は跳ぶ時にはいつも、飛躍する自身を鼓舞するかのように、踏み切る瞬間自らの名を叫ぶ。祈りを込めて、決意を込めて、彼は強く踏み切った。飛翔する彼のイメージは、かくも美しくおわん型乳房のラインに支配され、果たしてその通りの孤を描いた。夢見た通りに美しく。大きな半円。さあ、どうだ！

「7メートル40！」

「あ、あれエー？」

アッサゴ・ハンス
(Assugo Hans 1897-1942)

ドイツ名家出身の
俊敏さを誇った
ストリートファイター



ハッター・テ・オ・タ・ク・ネー

題字： 妹 山

ハッターラ・キタクネーの偽史話人伝

発行日 平成二十七年三月八日 初版

発行者 トオノキョウジ（クロヒス諸房）

連絡先 kyozy.tohno@gmail.com

WEB <http://crohysshobou.net/>

印刷所 株式会社ポプルス

ニートな学者のハッターラ・キタクネー
オネエ走りのオマティ・ニナッティ
食えない大食漢ニクス・ゲークッター

いそうでいない珍名人の
ありそうでなぜげな偽史話人伝
笑って泣いて聞いた口から
出てきたその名にまた人生

働きたくねえおヒマのお供
悩みそライトに掌編集

作:トオノキョウジ

絵:鴨橋RIKI

4コマ:maro

題名:やま

クロヒス諸房

<http://crohysshobou.net>